

小学校体育授業の「体ほぐしの運動」における

コミュニケーションスキルのミニмумに関する研究

八木 和¹⁾ 牛山 眞貴子²⁾

A study of the minimum for communication skill in loosen body movement with elementary students

Nodoka Yagi, and Makiko Ushiyama

Key words: loosen body movement, communication skill, minimum

(Bulletin of Department of Physical Education, Faculty of Education, Ehime University, 6, 73-81, March, 2009)

キーワード：体ほぐしの運動、コミュニケーションスキル、ミニмум

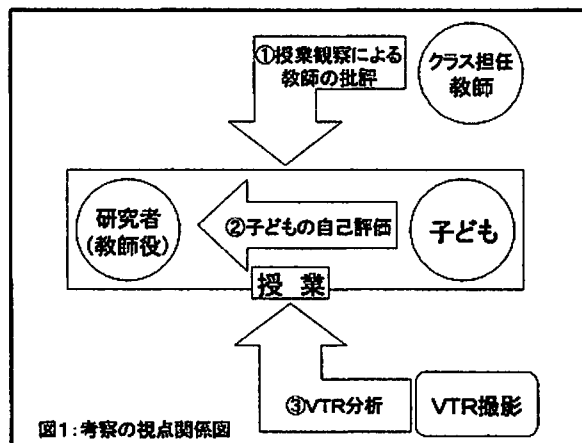
I 研究目的

近年、ミニмум(細分化した具体的な評価観点)の設定について議論されるとともに、子どものコミュニケーションスキルの低下が危惧されている。三木(2000)は「体ほぐしの運動」の授業は、子ども任せになりやすく、ねらいを達成するための学習の流れや指導方法が分かりにくいと言及している。しかし、「体ほぐしの運動」は子どもたちにとって心身共に成長を促す重要な運動である。そこで、本研究はコミュニケーションスキルの向上を目的とした、「体ほぐしの運動」のワークのミニмумを作成、実践を通して検討し、「体ほぐしの運動」のミニмумに関わる一資料を提供することを目的とした。

II 研究方法

コミュニケーションスキルの向上を目的とする「体ほぐしの運動」のワークのミニмумを研究者が作成、それに基づ

き研究者自身が教師役として、小学校低学年・高学年の子どもを対象に授業を実践した。①授業観察によるクラス担任教師の批評、②子どもの自己評価、③授業風景のVTR分析、以上3つの視点から各ミニмумの達成度を考察し、実際に授業で用いることができるミニмумであるかを検討した。そして、改善を加えたミニмумと、ミニмум達成のための指導の注意点および具体的支援をまとめた。



1) 愛媛大学院教育学研究科
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
2) 愛媛大学教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime,
〒790-8577, Japan
2. Faculty of Education, Ehime University,
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime,
〒790-8577, Japan

授業回数およびワークの内容は表の通りであり、低学年・高学年同じものとした。

授業回数	ワーク名	難易度
第1回	じゃんけんぐるぐる	低
	じゃんけんどかん	↓
第2回	シグナルタクシーⅠ	
第3回	シグナルタクシーⅡ	
第4回	ストップ・アンド・ゴー	
第5回	レクレーションダンス	↑
第6回	ブラインドタクシー	高

なお、各ワークの行い方や目的については、以下の通りである。

■じゃんけんぐるぐる(2人組)

お互いに右手をつなぎ、じゃんけんで負けた方が勝った方の周りを全力で走る。1回目は2周、2回目は3周、3回目は4周、4回目は5周、5回目は右手つなぎで5周の後、左手つなぎで5周走る。仲間と協力し合って活動する力を養い、パートナーチェンジを加えることで、誰とでもかかわり合いを持って活動する力を養う。

■じゃんけんどかん(2人組)

足じゃんけんをして、負けた方がパートナーの目の前で「ドッカーン」と叫びながら思い切り良くジャンプして倒れ、すぐ起き上がる。これを何回か繰り返した後、次はあいこになったら両者が「ドッカーン」と叫びながら思い切り良くジャンプして倒れ、すぐ起き上がることを繰り返す。恥ずかしながら自己表現をし合う態度を身に付けるとともに、パートナーチェンジを加えることで、誰とでもかかわり合いを持って活動する力を養う。

■シグナルタクシー(3~5人組)

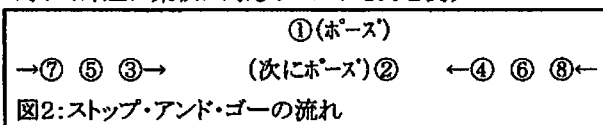
縦一列になり、先頭のリーダーのシグナルに対して、後者が対応する動きを行いながら進む。互いの表現の変化を認め合い、仲間の反応に自己を対応させてかかわる力を養う。進み方は歩く、スキップ、走るの3段階である。

リーダーの出すシグナル	両手を広げる	両手で壁をつくる	体の部分で輪をつくる	後ろを振り返る
シグナルに対する反応の動き	両手の下をくぐる	壁に体の部分をあてる	輪に体の部分をくぐらせる	床に倒れてすぐ起き上がる

■ストップ・アンド・ゴー(8~10人組)

図2のような配置からスタートし、自分の前の人のポーズに対応させて、即興的にポーズをとり、それをリレー式に繋いでいく即興的ワーク。リレー式にポーズを取ることで生まれる、仲間との関連性やグループのストーリー性を感じ合う中で、個々の表現の変化を認め合い、仲間の反応に

対して即座に柔軟に対応しかかわる力を養う。



※自分の前の番号の人がポーズで止まったら、その人の近くへ行き自分もポーズをとる。次の番号の人が来てポーズをとったら、出てきた方と反対側へ並ぶ。

■レクレーションダンス(全員)

レクレーションダンスは、簡単で覚えやすい繰り返しの動きで構成されたダンスである。リズムが取りやすく、明るい曲で踊る。円や向かい合わせの構成や、身体接触(コンタクト)の動きを取り入れるなど、構成や振り付けを通して、他者とかかわる機会を多くもたせる。男女に関わりなくメンバーを構成し、パートナーチェンジを加え、できるだけ多くの人とかかわりながら踊る。一般的に2~4人組で行われるものが多いが、本研究では4人組の手遊びを多用した「わたし・みんな」というレクレーションダンスを取り上げた。

■ブラインドタクシー(2人組)

目を閉じた前者を、後者が後ろから触れることによって誘導し進んでいくワーク。触れる部分によって前進、後退、曲がるなどする。役割交代をして誘導する者とされる者の両者を体感することで、お互いを信頼し合い相手と気持ちを通わせながら活動する力や、相手の気持ちになって行動する力を養う。

後者の触れる部分	前者の進む方向
両肩	まっすぐ前進
右肩	右折して前進
左肩	左折して前進
背中	真後ろへ後退
進んでいるときに両肩	ストップ

Ⅲ 検討したミニマム

検討したワークのミニマムは以下の通りである。なお、授業に反映しやすくするために、ミニマムを(関心・意欲・態度)・(思考・判断)・(技能)の3つの観点に、それぞれ分類した。

□第1回授業 じゃんけんぐるぐる・じゃんけんどかん 《両ワーク共通のミニマム》

1:自ら進んで誰とでも2人組を組もうとする。(関心・意欲・態度)

《じゃんけんぐるぐるのミニマム》

2:勝った者は肘を伸ばして走ることができる。(技能)

- 3: 負けた者は肘を伸ばして支えることができる。(技能)
 - 4: 勝った者は全力を出して走ろうとする。(関心・意欲・態度)
 - 5: 負けた者は軸が動かないように支えようとする。(関心・意欲・態度)
- 《じゃんけんどかんのミニマム》
- 6: 大声で叫びながら思い切りジャンプして床まで倒れ、すぐに起き上がることができる。(技能)
 - 7: パートナーと目線を合わせたり、タイミングを合わせたりしている。(思考・判断)
 - 8: テンポよく繰り返して、じゃんけんどかんができる。(技能)

□第2回授業 シグナルタクシーⅠ

- 1: 自ら進んで誰とでもグループをつくろうとする。(関心・意欲・態度)
- 2: リーダーは後者にシグナルを伝えることができる。(技能)
- 3: リーダー役の出すシグナルに対して、動きでレスポンスを返すことができる。(技能)
- 4: 動きの大きさや力加減を考えて、レスポンスを返している。(思考・判断)
- 5: 列を形成したまま、グループでスピードを合わせて進んでいる。(思考・判断)
- 6: 互いの動き方の違いを認め合っている。(思考・判断)

□第3回授業 シグナルタクシーⅡ

- 1: 自ら進んで誰とでもグループをつくろうとする。(関心・意欲・態度)
- 2: リーダーは後者にシグナルを伝えることができる。(技能)
- 3: 仲間の出すシグナルに対して、すぐに動きでレスポンスを返すことができる。(技能)
- 4: 動きの大きさや力加減を考えて、レスポンスを返している。(思考・判断)
- 5: 列を形成したまま、グループでスピードを合わせて進んでいる。(思考・判断)
- 6: 仲間を信頼して活動している。(思考・判断)
- 7: シグナルの出し方やレスポンスの返し方について、工夫ができる。(技能)
- 8: 互いの動き方の違いを、楽しむとしている。(関心・意欲・態度)

□第4回授業 ストップ・アンド・ゴー

- 1: 自ら進んで誰とでもグループをつくろうとする。(関心・意欲・態度)
- 2: 前者の出したポーズに対して、即座にレスポンスのポ

ーズをとることができる。(技能)

- 3: 後者に伝わるように、はっきりとポーズをとることができる。(技能)
- 4: 互いのポーズの違いを認め合っている。(思考・判断)
- 5: いろいろな工夫のあるポーズをとっている。(思考・判断)

□第5回授業 レクリエーションダンス

- 1: 自ら進んで誰とでもグループをつくろうとする。(関心・意欲・態度)
- 2: レクリエーションダンスの振り付けを踊ることができる。(技能)
- 3: 相手と目線を合わせたり、声を掛け合ったりして活動している。(思考・判断)
- 4: 仲間と動きのタイミングを図りながら踊っている。(思考・判断)
- 5: 全力を出して踊ろうとする。(関心・意欲・態度)

□第6回授業 ブラインドタクシー

- 1: 自ら進んで誰とでも2人組をつくろうとする。(関心・意欲・態度)
- 2: 前者は後者のサインに対して反応することができる。(技能)
- 3: 前者はサインに対してスムーズに反応している。(思考・判断)
- 4: 後者はサインを出して、前者を誘導することができる。(技能)
- 5: 後者は前者を安全に誘導している。(思考・判断)
- 6: 後者は前者への触れ方を考えて、サインを出している。(思考・判断)
- 7: 互いを信頼し合って活動している。(思考・判断)
- 8: 真剣に活動に取り組んでいる。(思考・判断)
- 9: 思いやりや優しさをもって活動している。(思考・判断)

IV ミニマムの達成度の考察

授業観察を行った教師による、ワークの内容やミニマムに対する批評を以下に示した。また、子どもの自己評価・VTR分析から考察した、ミニマムの達成度を表にまとめた。なお、表中の「未達成」とは、達成できていない子どもがいたと考察した部分であり、空欄は達成度を考察する要素が得られなかった部分である。

□第1回授業 じゃんけんぐるぐる・じゃんけんどかん

低学年担任教師

- ・ミニマム3について、「肘を伸ばした方が支えやすい」ということを理解させるような、具体的な指導が必要だと感じる。
- ・ミニマム5について、低学年の子どもは力が無いために軸となる人が動いてしまうので、それが動かないようにするにはどうすればよいか、具体的な指導が必要だと感じる。
- ・じゃんけんとかんは楽しく取り組める内容であるが、ミニマム8について、どうしても恥ずかしがってしまう子どもがいるので、ミニマムとして少し難易度が高いのではないか。
- ・上記以外については、低学年に難易度は適している。
- ・子どもたちがとても喜んでいたので、良いワークだと思う。

高学年担任教師

- ・ミニマム2～5について、内容が細か過ぎて、評価しにくい。例えば、ミニマム3と5を合わせて、「思いやりをもって」とするなど、簡略化した方が実際の指導現場では使い易い。子どもが全力を出して取り組めているか、思いやりをもって行動できているかなど、一見評価が曖昧になりそうな表現でも、担任の教師であれば、できているか否かの見極めは可能である。
- ・高学年に難易度は適していると思う。

ミニマム	子どもの自己評価から考察した達成度		VTR分析から考察した達成度		
	男子	女子	男子	女子	
低学年	1	未達成	全員達成	未達成	未達成
	2			全員達成	未達成
	3			全員達成	未達成
	4	未達成	未達成		
	5	全員達成	未達成	全員達成	全員達成
	6	未達成	未達成	全員達成	全員達成
	7	全員達成	未達成		
	8	全員達成	未達成	未達成	全員達成
高学年	1	全員達成	未達成	未達成	未達成
	2			未達成	未達成
	3			未達成	未達成
	4	全員達成	未達成		
	5	全員達成	未達成	未達成	未達成
	6	全員達成	未達成		未達成
	7	全員達成	未達成		
	8	全員達成	未達成		

□第2回授業 シグナルタクシー I**低学年担任教師**

- ・4人組という人数設定は、低学年にとってちょうど良いと感じた。
- ・ミニマム4について、子どもたちが力加減や速度を自然に考えながらできていたので、このミニマムは低学年に適している。
- ・始めに、前の人の肩を持って歩く練習をしたことで、進む

速度への意識が子どもたちに芽生え、ミニマム5が達成されやすくなったと思う。

- ・ミニマム6、他者と違う動きが自然に出てきていたので、このミニマムは適していると思う。また、他者と違う動きが自然に出てきていたことから、次の授業へもつながっていくと感じる。
- ・どの子どもにとっても、とても楽しい活動であったと思う。

高学年担任教師

- ・ミニマム4・5は、教師の手本の見せ方によって達成度が決まってくると思う。教師がオーバーなくらいにミニマムを達成している状態で見本を見せると、子どもたちがそれを目標とするので、自然とミニマムが身に付けられるのではないか。
- ・子どもたちがとても楽しそうに活動していたことが印象的だった。
- ・高学年に難易度は適していると思う。

ミニマム	子どもの自己評価から考察した達成度		VTR分析から考察した達成度		
	男子	女子	男子	女子	
低学年	1	未達成	全員達成		
	2			全員達成	全員達成
	3			全員達成	全員達成
	4	未達成	未達成		
	5	未達成	未達成	未達成	全員達成
	6	未達成	全員達成		
高学年	1	全員達成	未達成		
	2			全員達成	全員達成
	3			全員達成	全員達成
	4	全員達成	未達成		
	5	全員達成	未達成	全員達成	全員達成
	6	全員達成	未達成		

□第3回授業 シグナルタクシー II**低学年担任教師**

- ・前回よりも、子どもたちがのびのびと楽しそうに活動しているように感じた。
- ・男女で向かい合った状態から、相手がつくっている輪の中へ体ごとくぐったり、股の下をくぐったりするなど、低学年ならではの動きが引き出せていたように思う。ミニマム6にあるように、仲間同士を信頼し合って活動していることで、生まれる動きだと思う。
- ・「工夫した動き」や「楽しかった動き」などを活動後に子どもに書かせることで、ミニマム7・8より達成されると感じた。

高学年担任教師

- ・前回に引き続き、子どもたちがとても楽しそうに活動していたので良かったと思う。
- ・男女に分け隔て無く、アクティブに活動できていたことから、ミニマムの難易度については問題なく、ほとんど全員の子どもが達成できていたと思う。

ミニマム	子どもの自己評価から考察した達成度		VTR分析から考察した達成度		
	男子	女子	男子	女子	
低学年	1	全員達成	全員達成	未達成	未達成
	2			全員達成	全員達成
	3			全員達成	全員達成
	4	未達成	未達成		
	5	未達成	未達成	未達成	未達成
	6	全員達成	全員達成		
	7	未達成	未達成	全員達成	全員達成
	8	全員達成	全員達成		
高学年	1	全員達成	全員達成	未達成	未達成
	2			全員達成	全員達成
	3			全員達成	全員達成
	4	全員達成	全員達成		
	5	全員達成	全員達成	全員達成	全員達成
	6	全員達成	全員達成		
	7	全員達成	全員達成	全員達成	全員達成
	8	全員達成	全員達成		

□第4回授業 ストップ・アンド・ゴー

低学年担任教師

- ・ミニマム5について、始めのうちはポーズに悩んでいる子どもが多かった。しかし、そのような子どもを、他の子どもが温かく見守っている姿が、とても良いと思った。
- ・目と目で合図をし合うなどして、ポーズ以外の面でもコミュニケーションが図れていたと思う。
- ・子どもたちの「恥ずかしいけれど、楽しい」という気持ちがよく伝わってきた。
- ・「恥ずかしいけれど、いろいろなポーズにチャレンジする」という勇気が持っているかどうか重要なのではないかな。
- ・ミニマム4・5の達成に、相互鑑賞はとても効果的だったと思う。

高学年担任教師

- ・達成させたいミニマムではあるが、高学年ということもあり、特に女子は恥ずかしがる子どもが多いので短時間の活動では、達成が難しいと感じる。

ミニマム	子どもの自己評価から考察した達成度		VTR分析から考察した達成度		
	男子	女子	男子	女子	
低学年	1	未達成	全員達成		
	2	未達成	未達成	全員達成	全員達成
	3	未達成	未達成	全員達成	全員達成
	4	全員達成	全員達成		
	5	未達成	未達成		未達成
高学年	1	全員達成	未達成		
	2	未達成	未達成	全員達成	未達成
	3	未達成	未達成	全員達成	全員達成
	4	全員達成	全員達成		未達成
	5	未達成	未達成		

□第5回授業 レクリエーションダンス

低学年担任教師

- ・練習を繰り返していく内に、目と目が合ったり、タイミングが合ってきたりと、徐々にミニマム3・4が達成されていったように思う。しかし、上手にできていない子どももいたので、「成功させるにはどうすればよいか」を子どもたちなりに考え、試す時間があれば良かった。または、成功させるためのヒントの指導があれば良いと思う。
- ・目線や手を合わせるという意識を子どもたちが持つことで、自発的な学習ができていた。
- ・ダンスの振り付けの難易度は低学年に合っていた。

高学年担任教師

- ・高学年にはダンスの振り付けの難易度が少し簡単だったように感じた。
- ・男女分け隔て無く、楽しそうに活動できていたのが良かった。

ミニマム	子どもの自己評価から考察した達成度		VTR分析から考察した達成度		
	男子	女子	男子	女子	
低学年	1	未達成	全員達成	未達成	
	2			全員達成	全員達成
	3	未達成	全員達成	全員達成	全員達成
	4	未達成	全員達成	全員達成	全員達成
	5	全員達成	全員達成		
高学年	1	全員達成	全員達成	未達成	未達成
	2			全員達成	全員達成
	3	全員達成	未達成	全員達成	全員達成
	4	全員達成	未達成	全員達成	全員達成
	5	全員達成	全員達成		

□第6回授業 ブラインドタクシー

低学年担任教師

- ・始めは、怖がっている子どもや強く相手の体を叩いてしまいう子どもがいたが、例を示して指導することで子どもたちの優しさが、目に見えて分かるようになり、ミニマム2・3が達成されていったと思う。
- ・子どもの成長が見られる、すてきなワークだと思う。
- ・「信頼し合って」など、やや抽象的なミニマムの表現部分もあるが、子どものことをよく観察すると、触れ方や歩き方からよく分かる。
- ・難易度は低学年に適していると思う。

高学年担任教師

- ・最後までふざけている男子がいたので、ミニマム7・8については達成度がやや低いと思う。
- ・非常に繊細なワークであるので、教師が雰囲気をつくることができれば、大切な学びにつながると思う。

ミニマム	子どもの自己評価から考察した達成度		VTR分析から考察した達成度		
	男子	女子	男子	女子	
低学年	1	未達成	全員達成	未達成	未達成
	2			全員達成	全員達成
	3	未達成	未達成		未達成
	4			全員達成	全員達成
	5	未達成	未達成	全員達成	全員達成
	6	未達成	未達成		
	7	未達成	未達成	未達成	未達成
	8	未達成	全員達成	未達成	未達成
	9	未達成	未達成	未達成	
高学年	1	全員達成	未達成		
	2			全員達成	全員達成
	3	未達成	未達成		
	4			未達成	未達成
	5	未達成	未達成	未達成	未達成
	6	未達成	未達成		
	7	未達成	未達成	未達成	未達成
	8	全員達成	未達成	未達成	未達成
	9	未達成	未達成	未達成	

V 検討後のミニマム

授業観察によるクラス担任教師の批評、子どもの自己評価、授業風景のVTR分析、以上3つの視点から各ミニマムの達成度を考察し、実際に授業で用いることができるミニマムとするために、改善を加えたミニマムと、ミニマム達成のための指導の注意点および具体的支援をまとめた。

□じゃんけんぐるぐるのミニマム

1: 自ら進んで誰とでも2人組を組もうとする。(関心・意欲・態度)

◆低学年男子・高学年女子は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。

2: 勝った者は肘を伸ばして走ることができる。(技能)

◆肘を伸ばした方が、全力で走ることができること、負けた者が支えやすいことを指導する必要がある。

3: 負けた者は肘を伸ばして支えることができる。(技能)

◆肘を伸ばした方が、勝った者が全力で走ることができること、勝った者を支えやすいことを指導する必要がある。

4: 勝った者は全力を出して走ろうとする。(関心・意欲・態度)

◆普段から子どもの様子をよく観察し、それらを参考にし、全力を出しているか否かを判断する。

◆低学年男子・高学年女子に達成できない子どもがいる可能性があるため、その子どもには声をかける、教師と一緒に走るなど具体的な支援を行う。

5: 負けた者は軸が動かないように支えようとする。(関心・意欲・態度)

◆肘を伸ばした方が、勝った者が支えやすいことを具体的に指導する必要がある。

□じゃんけんどかんのミニマム

1: 自ら進んで誰とでも2人組を組もうとする。(関心・意欲・態度)

◆低学年男子・高学年女子は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。

2: 大声で叫びながら思い切りジャンプして床まで倒れ、すぐに起き上がることができる。(技能)

◆低学年男子は達成できない子どもがいる可能性があるため、その子どもには、教師がその子どもだけに見本を見せる、できている子どもを紹介するなど、具体的な支援を行う。また、羞恥心を軽減させるために繰り返し行う。

◆高学年男子・高学年女子は初めほとんどの子どもが未達成であると予想されるため、羞恥心を軽減させるために繰り返し行い、徐々に達成に近づける。

◆高学年は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。

3: パートナーと目線を合わせたり、タイミングを合わせたりしている。(思考・判断)

◆高学年は初めほとんどの子どもが未達成であると予想されるため、子どもが目線を合わせることにタイミングを合わせることを意識できるように、ルール説明を行う。

◆高学年は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。

4: テンポよく繰り返して、じゃんけんどかんができる。(技能)

◆低学年男子は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。

◆低学年には少し難易度が高いので、初めは一斉に1回ずつ行い、徐々にその間隔を縮め、テンポを上げていく。また、すぐに起き上がらないためにテンポが悪くなるので、すぐに起き上がる点を重点的に指導する必要がある。

□シグナルタクシー I のミニマム

1: 自ら進んで誰とでもグループをつくらうとする。(関心・意欲・態度)

2: リーダーは後者にシグナルを伝えることができる。(技能)

3: リーダー役の出すシグナルに対して、動きでレスポンスを返すことができる。(技能)

4: 動きの大きさや力加減を考えて、レスポンスを返している。(思考・判断)

◆教師がミニマムを達成できている状態を分かりやすく手

本として示し、子どもたちに動きの大きさや力加減に対する意識を持たせる。

5:列を形成したまま、グループでスピードを合わせて進んでいる。(思考・判断)

- ◆子どもがグループでスピードを合わせて進むことを意識できるように、グループで一体となって活動することを大切に考えるように助言する。

6:互いの動き方の違いを認め合っている。(思考・判断)

□シグナルタクシーⅡ〔発展〕のミニマム

1:自ら進んで誰とでもグループをつくらうとする。(関心・意欲・態度)

- ◆低学年男子・低学年女子・高学年男子は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。
- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

2:リーダーは後者にシグナルを伝えることができる。(技能)

- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

3:仲間の出すシグナルに対して、すぐに動きでレスポンスを返すことができる。(技能)

- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

4:動きの大きさや力加減を考えて、レスポンスを返している。(思考・判断)

- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

5:列を形成したまま、グループでスピードを合わせて進んでいる。(思考・判断)

- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

6:仲間を信頼して活動している。(思考・判断)

- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

7:シグナルの出し方やレスポンスの返し方について、工夫ができる。(技能)

- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

◆低学年女子は達成できない子どもがいる可能性があるため、教師が子どものグループに入り手本を見せる、使う体の部位や動き方について具体的なヒントを助言するなど支援を行う。

◆シグナルの出し方やレスポンスの返し方について、自分の工夫と仲間の工夫を、子ども自身に記録させるとミニマムが達成されやすい。

8:互いの動き方の違いを、楽もうとしている。(関心・意

欲・態度)

- ◆特別な支援をしなくても、高学年はほぼ全員が達成できると予想される。

◆仲間のシグナルの出し方やレスポンスの返し方について、楽しかったところ、おもしろかったところを、子ども自身に記録させるとミニマムが達成されやすい。

□ストップ・アンド・ゴーのミニマム

1:自ら進んで誰とでもグループをつくらうとする。(関心・意欲・態度)

2:前者の出したポーズに対して、即座にレスポンスのポーズをとることができる。(技能)

- ◆高学年女子は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。

◆低学年女子・高学年男子・高学年女子は達成できない子どもがいる可能性があるため、その子どもがいるグループに対して、教師が先取りで進み出るタイミングを伝え、すばやい行動を促す。また、ポーズに迷っているために、ミニマムが達成できていない子どもには、使う体の部位や、ポーズのモチーフとなるヒント(スポーツ・動物・職業など)を出して助言する支援を行う。それでも困難な場合は、「立つ」「座る」「寝る」など、日常的な動きがポーズに成り得ることを助言する支援を行う。

3:後者に伝わるように、はっきりとポーズをとることができる。(技能)

- ◆高学年女子は初めほとんどの子どもが未達成であると予想されるので、はっきりと止まらないと後者にはポーズが伝わりにくいということを、具体的に例を挙げて示し、指導する必要がある。

4:互いのポーズの違いを認め合っている。(思考・判断)

◆高学年は初めほとんどの子どもが未達成であると予想されるので、相互鑑賞の際は、声に出してほめる、鑑賞している子どもに「あのポーズすてきだね」と紹介するなど、子どもがいろいろなポーズに挑戦しやすいような開放的な雰囲気をつくる。また、教師自身が子どもたちのポーズを見て楽しさを感じている姿勢を見せることが重要である。

- ◆高学年は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。

5:いろいろな工夫のあるポーズをとっている。(思考・判断)

◆高学年女子は初めほとんどの子どもが未達成であると予想されるので、まずは羞恥心を軽減させるために、相互鑑賞を織り交ぜて繰り返し行う。向き・高さ・使う体の部位・ポーズのイメージなど工夫のポイントに気付かせ、助言を行うことが重要である。

□レクリエーションダンスのミニマム

- 1: 自ら進んで誰とでもグループをつくろうとする。(関心・意欲・態度)
- 2: レクリエーションダンスの振り付けを踊ることができる。(技能)
 - ◆レクリエーションダンスは徐々に難易度を上げていくことが可能なワークであるので、複雑なステップを加える、曲のテンポを速くするなど応用を効かせて指導する必要がある。
 - ◆教師はできていない子どもに「なぜ、できていないと教師が判断したか」を丁寧に解説し、子どもが自分自身でクリアできるように手がかりを指導する。
- 3: 相手と目線を合わせたり、声を掛け合ったりして活動している。(思考・判断)
 - ◆高学年女子は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。
 - ◆相手と目線を合わせる事、声を掛け合うことが、コミュニケーションを図る場面で大切であるということに注意喚起して指導する。
- 4: 仲間と動きのタイミングを図りながら踊っている。(思考・判断)
 - ◆高学年は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。
- 5: 全力を出して踊ろうとする。(関心・意欲・態度)
 - ◆普段から子どもの様子をよく観察し、それらを参考にして、全力を出しているか否かを判断する。

□ブラインドタクシーのミニマム

- 1: 自ら進んで誰とでも2人組をつくろうとする。(関心・意欲・態度)
- 2: 前者は後者のサインに対して反応することができる。(技能)
- 3: 前者はサインに対してスムーズに反応している。(思考・判断)
- 4: 後者はサインを出して、前者を誘導することができる。(技能)
- 5: 後者は前者を安全に誘導している。(思考・判断)
- 6: 後者は前者への触れ方を考えて、サインを出している。(思考・判断)
 - ◆教師がミニマムを達成できている状態を分かりやすく手本として示し、子どもたちに触れ方の力加減に対する意識を持たせる。
- 7: 互いを信頼し合って活動している。(思考・判断)
- 8: 真剣に活動に取り組んでいる。(思考・判断)
 - ◆低学年女子・高学年男子は過大に自己評価しやすい傾向があるので留意する。
 - ◆高学年は話しながら活動したり、ふざけて活動したりし

て真剣に取り組まない子どもがいる可能性がある。その子どもには、一度静止をさせ、話したりふざけたりしてはいけないことを注意する。また、教師は静かに呼びかけ、子どもたちを集中させるように話し方を工夫し、子どもが真剣に取り組める雰囲気をつくるように努める。BGMを用いる場合は穏やかで落ち着いた曲を選曲する。

9: 思いやりや優しさをもって活動している。(思考・判断)

- ◆高学年はわざと足音を立てたり、怖がらせたりする子どもがいる可能性がある。その子どもには、一度静止をさせ、一時的にその子どもと一緒に活動し、子どもがやっていたことを教師がやって見せ、子ども自身に不適切な点や乱暴な点を気付かせ、考えさせる指導をする。

VI 総論

教師には、自身の能力でミニマムを設定できる能力が求められている。その際重要なことは、教師が準備段階で子どもたちの活動の様子を想像し、実際にどのような指導が必要になるかを予想することである。子どもと授業に対するイメージを心の中に鮮明に描いておくことで、授業の進行や指導に臨機応変さが生まれ、一つのミニマムに対して、様々な角度から子どもたちを達成に導くことができる。子どもの状況を瞬時に把握し、その場でミニマム達成に向けて具体的な指導を行うための多角的な指導のバリエーションを持つこと、また、それによって子どもがどのように学習していくか想像力を働かせることは、教師にとって重要なスキルである。ミニマムを設定するにあたって、教師は日頃から子ども一人一人と向き合い、子どものことを熟知しておかなければならない。そうでなければ、子どもたちにとって適切なミニマムを設定できないし、設定できたとしても、子どもたちがミニマムを達成できているのか判断に困る。特に、全力で行っているか、努力しているか、活動に対する子どもの心の面を見極めることは難しい。そのような抽象的な形容詞交じりのミニマムを、教師は見極められないという議論もあるが、教師が普段子どもたちと過ごしている時間と、そこから生まれる信頼関係を考慮すると、やはり現場の教師の目は信頼できる。しかしながら、「体ほぐしの運動」において、ミニマムの設定は難しい。なぜなら、「体ほぐしの運動」は目に見える身体や、身体能力の成長に加えて、体を動かすことを通して心の成長を目的としているからである。その心の成長が伺える、子どもの僅かな動きの変化を教師は見逃してはならない。子どもの心の変化を感じ取れる、教師自身の心の目を養うことが大切である。

ミニマムを用いるにあたり、それぞれのミニマムについて、「十分満足できる状況」、「おおむね満足できる状況」、「努力を要する状況」という3つの達成度を明確にしておく必

要がある。「努力を要する状況」の子どもとはどんな状況なのか明確にしておくことで、具体的な支援を準備することが可能になり、その場で「努力を要する状況」から、「おおむね満足できる状況」に導くことが可能になる。ミニマムとは、子どもができるか否か、教師が判断する物差しのようなものであるが、忘れてはならないのは、できない子どもにどのような具体的指導を行うかということである。実際に子どもたちを評価し、見えてきた状況から個別に支援を整理する。そして、具体的な支援を準備し、それを実践する。このように、毎回の授業実践を通し、評価したことを改善に結び付け、次の指導へ生かすのである。

引用・参考文献一覧

- 1) 高橋健夫(2006)「体育のミニマムとは何か」体育科教育 2006. 02:10-13
- 2) 文部科学省 健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会(2005) 審議経過の概要-「すべての子どもたちにミニマム」とは?-:5-8
- 3) 文部科学省(2000) 学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動-授業の考え方と進め方-:18-19
- 4) 安達昇・川崎史人・平井浩明(1999) みんなとの人間関係を豊かにする教材55:24